

行政視察報告書

令和4年5月20日

呉市議会議長様

呉市議会議員

中原明夫

呉市議会議員

山本良二

呉市議会議員

光宗 等

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和4年5月16日(月), 17日(火), 18日(水)

2. 調査項目

北海道 登別市「登別ブランド推進事業について」

北海道 札幌市「札幌市図書・情報館について」
「電子図書館について」

北海道 札幌市「水道記念館」

3. 参加議員

中原議員, 山本議員, 光宗議員

4. 随行者

議会事務局議事課 副主任 山城未来

北海道 登別市

■調査項目

登別ブランド推進事業について

・調査対応者

登別市観光経済部商工労政グループ	総括主幹	服部	仁
登別市観光経済部商工労政グループ	主査	今	辰徳
登別市観光経済部商工労政グループ	担当員	野島	良太
登別市観光経済部商工労政グループ	担当員	谷	英樹

・調査期日

令和4年5月16日（月）午後3時～午後4時20分

・登別市の概要 [令和4年4月末現在]

人口：45,665人
世帯数：24,280世帯

・調査目的

全国に先駆け、平成21年より「登別ブランド」の確立に向けた取組を開始し、同年1月に「登別ブランド推進協議会」を設立し、新たな地域資源の掘り起こしや、効果的な情報発信を行い、登別ブランドの価値の認知度向上に取り組んでおり、その具体的な手法の調査・研究を行うことにより、呉市のブランド推進の今後の在り方を検討する。

・調査内容

【登別市からの説明】

登別市は、9種類ものバラエティ豊かな泉質があり、コロナ禍以前には、年間約400万人もの観光客が訪れていた。こうした登別の強みを生かし、地元産業の活性化を図るため、平成21年より「登別ブランド」の確立に向けた取組を開始し、同年11月に「登別ブランド推進協議会」を設立した。その後、特産品の具体的な対象や基準などについて議論を進め、大きく6つの基準を設定し、基準をクリアした商品について、「登別ブランド推奨品」として認定することとした。

当協議会においては、特産品の開発や商品の魅力向上、新たな地域資源の掘り起こしを行うとともに、効果的な情報発信を行い、登別ブランドの価値や認知度の向上を図っている。

また、登別や北海道ならではの新鮮な海産物や牛、豚、鹿の肉などの地場産品を使用したこだわりのある商品となっているため、品質の信頼度が高く、観光客がお土産として購入できるよう、常温保存の可能な商品も開発されている。

○6つの基準

①産地基準

主な原材料が登別市内で生産・採取されている加工品であること

②事業所基準

原則として登別市内に商品を製造・加工する事業所を有していること

③地域性基準

登別のイメージ向上に繋がり、また、他の地域と比較して、品質、食味、価格等の面で優れていること

④安全・信頼性基準

表示や生産・販売方法等が法令に基づき行われていること

⑤生産体制基準

安定的かつ継続的に生産できる体制となっていること

⑥意欲等

登別ブランドの普及や認知度向上、他事業者への波及効果が期待できること

○登別ブランド推奨品認定の流れ

①募集・受付（11月～12月）

②書類審査（12月）

③審査会（1月）

④最終決定（2月）

⑤認定証交付式（3月）

【主な取り組み】

登別市商談会等出展補助（登別市独自事業）

商談会、展示会、見本市等の出展に必要な経費の一部を支援。

※補助率2／3以内、上限20万円（非認定事業者は補助率1／2以内）

ものづくり創出支援事業補助（公益財団法人室蘭テクノセンター事業）

食品に係るマーケティング調査や試作品開発、デザイン開発等に係る経費の一部

※3／4以内、上限50万円

その他（登別ブランド推進事業）

ポスター、パンフレット、ホームページ、Facebook、プレスリリース、旅行雑誌等への広告掲載等により広く周知を図っている。

登別ブランド推進協議会でイベント出店の経費の一部負担を行う場合がある。

【事業の効果】

商談会出展による販路拡大等

商談会を通して取引を得るとともに、他の事業者の取組を学び取ることで、自社商品のブランド名やパッケージデザインのリニューアルなど、自らノウハウを構築している。

ブランド認定による他事業者との連携強化

登別ブランドの会の取組を通じたブランド認定事業者同士の繋がりにより、各社の商品を組み合わせた新商品の開発なども行われている。

ご当地グルメ「登別閻魔やきそば」

観光客の滞在時間が短いことや観光資源が登別温泉周辺に集中しており、市内に観光客を拡散させ、経済効果を広く波及させる仕組みが必要であったことから、平成26

年度に市内飲食店を中心とした有志が集い、フードコーディネーター（青山則靖氏）にアドバイスをいただきながら開発した。平成27年4月より登別市内の飲食店、宿泊施設（計22店舗）で提供が始まり、令和3年度までの7年間で43万3千食を提供し、TVや旅行雑誌、公共交通機関の機内誌など、各種メディアに掲載された。

【質疑応答】

（質問）登別ブランド推進協議会の運営費とその用途を伺いたい。

（回答）当初が400万円だったが、この10年間で減額されて、現在は、150万円となっている。

運営費は、審査会や、広告・宣伝、出展に伴う旅費・出展費に使用している。

（質問）登別ブランド推進協議会のメンバーと人数は何人か。

（回答）市が事務局となっており、観光協会、商工会議所、まちづくり団体、市内の専門学校（日本工学院北海道専門学校）などがメンバーとなっており、13名（市を除くと10名）である。

（質問）本市でも、新たに醸造所を設立し、地ビールを製造・販売している会社があるが、生産数が少量のため、大手より高額（1本が880円）で、なかなか販売が伸びていないように感じるが、配布いただいた登別ブランド推奨品に掲載されている「鬼伝説 青鬼ピルスナー、赤鬼レッドエール、金鬼ペールエール」の値段と販売状況はどうか。

（回答）1本（330ml）を660円で販売しており、普通の缶ビール1缶でその値段なので、高額だが、一昨年度の発売初年は3日で完売した。

実は、平成27、28年から登別産ホップを生産しており、市職員が苗植えから収穫まで手伝っており、令和2年は登別産ホップが約20%、令和3年が約50%となり、少しずつ割合を上げて、いつかは登別産ホップ100%の地ビールの生産を目指しているため、市民も値段だけでなく、その意味合いも理解してくれているように感じている。



（質問）ふるさと納税の返礼品として、この登別ブランド推奨品が対象になっていると思うが、納税額や人気はどうか。

（回答）ふるさと納税の返礼品として一部使用しており、1万円でビール5本とデザイングラスのセットが人気である。その他にも、ウニや温泉の宿泊券等も返礼品としており、ふるさと納税額は6～8億円で、道内の根室市の100億円超と比較すると少額だが、増額傾向にある。

（質問）本市も、イノシシの活用でジビエに力を入れていこうとしているが、この登別ブランド推奨品の鹿肉等のジビエは人気か。

（回答）長期保管可能な缶詰等で提供しているが、特に道外の方に人気がある。私たちがイノシシを食べてみたいと思うように、道外の方も鹿に馴染みがない分、食べてみたいと思う方が多いのではないかと感じる。

(質問) 登別ブランド推奨品の合格率は高いのか。

また、対象を市内事業者に限定すると、固定化が懸念されないのか。

(回答) ある程度、事前に基準を示していることもあり、合格率は高い傾向にあるが、ここ2年は申請が出ていない。過去には、審査会で、凄くよい商品だが、安定的な供給が難しいということで、認定できなかった商品もあるが、令和2年度は事業者の都合により、途中で辞退された。

基本的には市内事業者を対象としているため、恒久的に新商品を登別ブランド推奨品として認めていくことは難しいため、どこかで、区切りをつける必要性は感じている。

(質問) 先ほど、運営費の使途として、広告・宣伝のため、パンフレット(チラシ)を作成したと伺ったが、費用をかけなくてもできるSNSの活用はどのように捉えているか。

(回答) 確かに、現在はSNSの時代で、経費をかけなくても広報できる。例えば、登別温泉にあるプリン屋は、家族経営のため、なかなか広告・宣伝費をかけることができなかったが、インスタやツイッターなどのSNSを活用して宣伝した結果、このGWは、1個500円するプリンを1日に500個も売り上げている。やはり、よい商品を作ることも大事だが、見るきっかけ・見ってもらうきっかけ作りが大事だと感じているので、効果的にSNSも取り入れていきたい。

【呉市での展開の可能性】

登別市は、年間400万人の観光客が訪れていたが、温泉地に観光客が集中し、市内の回遊性を高めることが課題であった。これは、本市における大和ミュージアムへの一極集中と酷似している。登別市では、温泉地以外での消費増に向け、特産品の開発や商品の魅力向上により、新たな地域資源の掘り起こしを行ってきたが、コロナ禍により、観光客も約40万人に減少し、登別ブランド推奨品の販売額も減ってきている。

登別市の担当者が話すように、一部商品をふるさと納税の返礼品として使用しているが、市内事業者を限定とした登別ブランド推奨品には固定化等による限界がある。呉市では、登別市のようにブランド推進事業としては実施していないが、万が一、ブランド推進協議会を設立した場合は、同じ課題を抱えることとなる可能性が極めて高い。そのため、呉市においては、市内事業者への支援として、産地育成・農産物のブランド化の推進、農産物のPR推進・販路拡大支援、地産地消の推進等により、ブランドの推進や、先端技術の活用により、若い世代や移住者を呼び込むことができるよう各種施策を展開していくことが適していると考えられる。

北海道 札幌市

■調査項目

札幌市図書・情報館について
電子図書館について

・調査対応者

札幌市中央図書館 利用サービス課 図書・情報館（主査） 安本 朋幸

・調査期日

令和4年5月17日（火）午後2時45分～午後4時25分

・札幌市の概要 [令和4年5月1日現在]

人口：1,973,495人

世帯数：985,211世帯

・調査目的

貸出機能に重点を置いた呉市の図書施設とは異なる，調査相談・情報提供に特化した『課題解決型図書館』として整備された「札幌市図書・情報館」を調査研究することにより，呉市の図書施設の今後の在り方を検討する。

・調査内容

【札幌市からの説明】

札幌市は，人口が約190万人の北海道最大の政令指定都市だが，都心には図書施設は整備していなかった。区画整理により札幌市交流プラザが建て替えられ，その1，2階にスペースが生じ，そのタイミングで数億円の寄付をいただいたことから，札幌市図書・情報館を新たな施設として整備することになった。当施設は，「おしごとから，わたくしごとまで。」をコンセプトとし，都心で働く人たちが札幌を訪れる人にも利用しやすい街の中心に位置し，気軽に寄れて頼りになる知的空間で，貸出機能に重点を置いた既存の図書施設とは異なる，調査相談・情報提供に特化した課題解決型の図書館として計画し，館内を「WORK」「LIFE」「ART」の3つのエリアに分けて分野ごとの文献を置いて，利用しやすさを重視している。1階エリアは開放的な空間に北海道・札幌の魅力に関する図書を展示し，カフェと一体空間になっておりコーヒ一片手に読書を楽しめ，2階エリアは仕事や打ち合わせに活用できるグループエリア，大きな窓から創成川を望める，静かなリーディングルームなど多彩に構成し，人と情報，人と人をつなぎ，にぎわいと交流を生み出す都心にふさわしい情報拠点を目指している。

建設に当たり，図書・情報館の3つの役割（①仕事や暮らしに関する図書・情報提供，②札幌の魅力発信，③知的空間の創出）を実現すべく，「入りたくなる，隅々まで行ってみたくなる，また来たくなる」という3つのコンセプトを軸に，様々な家具や照明により外に対して表情を見せること，斜めに視線が抜ける動線や各エリアの輪郭強調することを意識して設計し，図書館建築ならではの苦労点として，蔵書数と座席数の確保だけでなく，利用者・職員の動線や視線の抜けへの配慮に試行錯誤した。

また，照明の色温度については通常の図書館よりも暖かみのある色を選んでおり，本の読みやすさとのバランスで悩んだが「新しいスタンダードを作りたい」との想いで決断し，結果として，居心地の良さに繋がったと感じている。

札幌市図書・情報館の概要

延床面積：1階 約300 m² 2階 約1,200 m² (図書館専有部分)

座席数：1階約30席，2階約170席

収納可能冊数：約40,000冊

設計：日建設計・北海道日建設計共同企業体

その他：飲み物持ち込み可，全館無料W i - F i を完備，一部座席にコンセント設置
一部座席はインターネットから予約可能，図書は館内利用のみ

【質疑応答】

(質問) 数年前にも，札幌市に視察に来たが，この場所に図書館があったのか。

(回答) 都心に図書施設は設けておらず，駐車場と民間ビル2棟があったが，もともと低利用の土地であったため，都心の有効活用という観点から，高度利用を目指した再開発が進められ，当施設は新設である。数億円を寄付して下さる方の意向と，当該建物の建設に当たり，当初予定していた施設が諸事情により整備できなくなり，スペースが空いたことが重なった結果である。

(質問) 小説や絵本は置いていないのか。

(回答) テーマを打ち出す際に，より認識を深めるために必要と判断した際には，一部，小説や絵本を置いている。例えば，SDGsやフェアトレードは，多岐にわたるので，一見とても分かりづらいが，児童書の解説は，シンプルで分かりやすいので，活用している。

(質問) どのような職員体制なのか。

(回答) 職員が7名(うち，館長，副館長が各1名)，司書は16名で行っている。1棚ずつ監修しているので，その分人員が必要である。

(質問) ほとんどの席が埋まっているが，来館者数はどのくらいか。

(回答) 本日は比較的用户数が少ないが，週末はほとんど席が空いておらず，一日1,000人から1,500人の利用がある。
当施設は，平成30年11月に開館しているが，そこからの1年間の利用者は100万人を超えており，昨年度は何日か休館していたが，47万人の来館があった。新型コロナウイルスの収束後は，徐々に100万人に戻していきたいと思っている。当初は30万人の利用を目標としていたので，一定以上の評価があると感じている。

(質問) メジャーな博物館レベルの来館者数だが，利用者の年齢層はどのようになっているのか。

(回答) 会館当初は，ビジネスユースの30代女性をターゲットとしていたが，いざ開館してみると，午前中は老年の方などが99種類揃えている新聞を昼までゆっくり見て，午後になると，フリーランスの方や，一般的な利用者が徐々に増えて，夜になると仕事帰りの方や勉強される方が大半を占めるようになる。当初の想定より，幅広い年代の方に利用していただいている。



(質問) 当施設は、全て無料で使用できるのか。

(回答) 資料の複写は自己負担となるが、それ以外は、会議室の利用等も全て無料である。

(質問) データベースも色々あったが、運営費はどのくらいかかるのか。

(回答) 手持ちがないので、申し訳ない。

(質問) 副館長は元々、図書館業務に携わっていたのか。

(回答) 以前は書店で勤務していたが、社会人経験の枠で採用となり、入庁後4年間は納税業務に就いていたが、昨年は地区の図書館に勤務し、この4月から当施設の副館長を務めている。

(質問) 昨年まで勤務していた通常の図書館と、現在の業務は全然違うのか。

(回答) 通常の図書館は、貸出業務・予約確保が主となるが、現在の業務内容は全く異なる。私は以前、蔦屋書店に勤務していたので、図書館が通常用いる図書館分類で書架構成されているよりも利用しやすく、他の司書と異なり違和感なく務めている。地区の図書館から異動してきたベテラン司書たちは、管理のしづらさはあるだろうが、利用者目線で考えると、当施設の書架は本当に分かりやすいと思う。

(質問) 当施設のPRを特別に行ったのか、それとも単純に市民が利用し始めて、口コミで広まったのか。

(回答) 実は、特段広報もしなかったが、口コミが凄かったようで、一時期SNSとかでも、『札幌市図書・情報館パーフェクトガイド』を勝手に作っている方もいたようで、当施設の利用方法を、利用者同士でシェアする盛り上がりが多かった。口コミを見ると、「近頃、紙の本から離れていたが、専門図書が揃っていると、紙の方が見やすい」や「レファレンスサービスを利用することで、自分がネットで調べるより情報量が増えた」という意見があった。

(質問) 現状と課題をどう感じているか。

(回答) 一自治体が、よく当施設を造ったなというくらい凄い施設だと思うが、民間経験から言うと、いかにこれを維持・発展させていくか、運営を継続させていくかが非常に難しいと感じる。今年度、副館長に着任してから、人事異動が定期的にきちんとされていて、16名の司書の意識が非常に高いと感じている。一部の司書が入替わっても、常にノウハウが継承されていく土壌が作られており、我々事務職員も、司書たちをできる限りサポートできるよう役割分担がきちんできてきているところが非常に素晴らしい。

現在、開館当時の職員は全員異動しているが、業務に支障を来したり、問題が発生していたりするわけではないが、人事異動があってもいかにノウハウ等を継承していくかが課題だと感じている。書架、棚をいかに維持するか、コンセプトを守っていくかが非常に難しいところなので、環境に合わせて、変えるべきところは変えて、変えてはいけないところは守っていくのが目標である。

(質問) デザインや仕様はどこかを参考にしたのか、それとも、札幌市独自のなのか。

(回答) 業界紙にも結構出ており、創業時の館長を務めていた課長（浅野隆夫氏）が、蔦屋図書館、図書館でなくても居心地のよい空間を造っているところに相当視察に行き、ノウハウ等を収集・蓄積し、市民からの「都心型の図書館を」という強い要望を上手くミックスさせて作り上げた、札幌市独自のデザイン、仕様である。

(質問) ここは、受験前に学生が勉強に来たりしないのか。

(回答) 開館当初、制限をせず、様子見をしていると、ほとんどの席が学生で埋まって、大変なことになったようで、徐々に説明していき、現在は、ほぼ解消されている。当施設は、館内の資料を参考に勉強するのはよいが、持ち込み参考書や赤本を持ってこられる方はお断りしている。

札幌市図書・情報館の外、2階のオープンスペースは、フリースペースとなっており、市民交流プラザの管轄地で、受験勉強もしていただけるので、そちらを案内できるので、大きなトラブルはない。

(質問) 掲示物が一切ないが、そこもルールで決めているのか。

(回答) その通りだ。チラシやポスターはキリがないので、掲示等は行っていないが、催し物等の情報は全て把握し、市民に聞かれたら回答できる体制にしている。数年経つと、テプラやセロハンテープの剥がし跡等は汚くなり、建物を悪くしてしまうので、事務室内も禁止しており、貼るのであれば、マスキングテープという細かなルールを設けて、現状を維持している。

また、掲示物のフォントやデザインも規程があり、それを継承している。

(質問) この細かなルールも、新設当初の課長（浅野隆夫氏）が考えていたのか。

(回答) その通りだ。前職の蔦屋書店でも、スタッフハンドブックというもので、細かなルールを決めており、当施設の運用が凄く似ていたので、課長（浅野隆夫氏）に聞いてみると、蔦屋書店の人間とも密に連携して情報を得て、色々なところに行って視察するだけでなく、人との繋がりで、そのようなノウハウ等も収集した上で造ったようである。

また、ビジネスユースなので、対等に話しかけやすい服装で対応するため、司書もエプロンを付けず、アースカラーのジャケットを各自で準備してジャケットスタイルで対応している。当初は、制服を作ろうとしていたが、さすがに通らなかったようだ。

(質問) これまで、公的施設でこのようなソフトデザインは見たことがないが、どこの会社が建設したのか。

(回答) 日建設計が建設したが、コンセプトと異なる設計が上がってきたときは、設計を変えていただいたり、時には担当者も変えていただいたりしたようだ。

(質問) 司書の異動希望で、当施設は人気なのか。

(回答) 当施設にいた司書を地区の図書館に異動させて、当施設で得た知識を展開していこうとしている段階だが、以前、当施設で勤務していた司書の多くは、また戻ってきたいという希望をしているみたいだが、地区の図書館でしか勤務したことがない司書は、前に出たくない方が多いように感じる。なので、新たに司

書になった方には、固定概念等がないので、当施設に配置する等により、「司書になるなら、札幌市」と言ってもらえるような司書の憧れの場所にしたいと思っている。

【呉市での展開の可能性】

札幌市図書・情報館は、区画整理により新たな施設に空きスペースが生じたところによくうまく寄付金や、市民のニーズがマッチしたタイミングで整備された。

さらに、札幌市図書・情報館の初代館長を務めた課長（浅野隆夫氏）の「図書館は『まちの情報拠点』、ここに来た人が悩みや課題を解決し、史上最高の自分にバージョンアップできる場所であってほしい」という強い思いから、開館までの約5年、構想段階から関わる中で「本ありきではなく、人ありき」という視点で拘り抜き、コンセプトや書架、家具、掲示や司書の服装に至るまでの運用マニュアルを作成するなど、全く新しい図書施設だと感じた。

本市にも、8カ所の図書館があるが、どこも、従来の図書施設である。今後、より一層デジタル化が進み、ジェンダー平等が求められる中、図書館も働く人の悩みに寄り添い、災害やジェンダーなどの社会問題にも触れられるラインアップにしていくことは、呉市においても必要ではないかと感じる。国内で貸出をしていないのは国立国会図書館と東京都立図書館と札幌市図書・情報館の3館だけで、当施設以外には市町では本を貸さない図書館はない。本市においても、これまでの図書施設運営にとらわれることなく、図書施設内でコーヒーが飲め、図書館ではお静かにとは言わず、平日は夜9時まで開館し、長時間座っても疲れない椅子を用意してみるのも、リカレント教育の支援や、高齢者の居場所作りには大切であり、また、いつきてもその本が読める、貸し出さないことのメリットは、働く方や、学ぶ方への支援にも繋がる。本市は、中心地にコワーキングスペースを設けていないため、コワーキングスペースも兼ねた図書施設を市中心部や駅前を作る等の工夫が必要ではないかと感じた。

北海道 札幌市

■調査項目

札幌市水道記念館について（施設見学）

・調査期日

令和4年5月18日（水）午前10時00分～午前11時45分

・札幌市の概要 [令和4年5月1日現在]

人口：1,973,495人

世帯数：985,211世帯

・調査目的

平成30年7月豪雨災害での長期間に渡る断水等をきっかけに、改めて水の大切さに気付かされた。子供たちには、SDGsの観点からも、当たり前のように水を使うのではなく、水の大切さや自然環境についての知識が必要なことから、『札幌市水道記念館』を調査研究することにより、呉市の子供が水に関して学習できる場の在り方を検討する。

・調査内容

札幌市水道記念館は、平成19年5月にリニューアルオープンした水道を通して自然と人のかかわりを考え、展示室全体で大自然から都会そして海へと向かう水の旅を表現し、参加・体験をしながら、水道を通して自然環境と人間の関わりを考え、水や自然の大切さを感じ取ることができる体験型ミュージアムである。藻岩山山麓である中央区伏見4丁目に位置し、建物の背景には緑豊かな山容を擁し、前面には札幌の市街地を見渡すことができる。周辺には、伏見稲荷神社、藻岩山ロープウェイ山麓駅などがあり、観光客や余暇を楽しむ市民で賑わうスポットとしても注目を集める地区にあり、平成19年度土木学会「土木遺産」選奨や、平成21年3月札幌市「札幌景観資産」に指定された。広場スペース・噴水広場は、水道記念館前の配水池上面を活用した広場で、藻岩浄水場は、札幌市の中心部に給水される水道水をつくっている浄水場である。また、アクアミュージアムは「豊かな水の恵みを訪ねる旅」をテーマとした展示スペースで、大自然から都会を結び、やがて海へと向かう水の旅をたどり、水の流れに沿って5つのゾーンを設け自然・水・くらしの関わりを紹介している。当施設は、小学校4年生を対象に、水道水ができるまでや、札幌市の水道についての詳細を展示しており、展示室を回りながら水の大循環について学ぶ小学生向け学習プログラムで水の大切さや自然環境について学べるようになっており、水に関して学ぶには適した施設である。展示以外にも、ゆったりとくつろぐことのできる「サロン」や、水に関する図書などを集めた「水の図書館」等があり、小さな子供も、遊びながら水に関して学習できる、教育の場として複合的な施設である。

札幌市水道記念館の概要

延床面積：地下2階、地上3階

（そのうち、地下1階、地上2階の約3,000平方メートルを開放）

事業主体：札幌市水道局

管理運営：一般財団法人札幌市水道サービス協会

○地下1階

①エントランス

②水工場

(水の工場, 水道施設の維持管理, 実験ラボ, 札幌水道マップ)

③アクアタウン

(水とくらしの時間旅行, 水道ライフ・発見ハウス, 世界の水事情, 水の防災インフォメーションコーナー, アクアシネマ)

④サイエンスパーク

(水の大循環ジム, ウォッピースロット, ヘキシャボン, エンジェルリング, アップルダウンウォッピー)

⑤水道プレイスタジオ

(ボールコースター, 水道マンをさがせ!)

⑥水道記念室

○地上1階

⑦水源の森

(森羅万象スクリーン, 豊平川ウォーキング, 札幌の巨大な水がめ)

⑧コミュニケーションホール

⑨キッズルーム

⑩水の図書館

⑪多目的ルーム

【呉市での展開の可能性】

札幌市水道記念館は、広大な敷地に、大人を対象とした展示をはじめ、ゆったりとくつろぐことのできる「サロン」や、児童を対象とした学習プログラムをはじめ、水に関する図書などを集めた「水の図書館」等があり、小さな子供も、遊びながら水に関して学習できる、教育の場として複合的な施設である。

呉市においては、市中心部に広大な土地を確保することや、施設の維持等は困難と考えるが、図書館の一角に、水に関する図書などを集めた「水の図書館」コーナーの設置や、タブレットを用いて、施設展示を見ること等により水の大切さや自然環境について学ぶなどの工夫により、当施設の事例は参考にできると感じた。